

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
05	プロジェクトJ ～人類ジュウラニアン化計画～
メンバー	[学 生] 小田 玲音 / 桑重 伶衣 / 櫻井 日菜乃 / 又地 史也 / 渡邊 千紘 [担当教員] 小林 真二
【背景】	2022年に生誕120周年を迎える函館市出身の文豪、久生十蘭の評価を盛り上げることを目的にプロジェクトは始まったが、当初はWikipediaを書くものであった。しかし、学生は彼について全く知らず、また周りの人も知らない人が多いことから、検索しなければ見ないWikipediaでは目的を達成できないと考えた。そこで市内各地でさまざまな年代の人にとにかく彼の名を知ってもらうために周知活動を行うことにした。そして彼の魅力を発信する中で「ジュウラニアン」と呼ばれる十蘭の熱狂的なファンを増やすことを目的に設定した。
【目的】	久生十蘭の知名度向上 ジュウラニアンの増加
【概要】	POP…各々がおすすめの作品について手書きで作成し、各イベントで活用 簡易版リトファスゾイル…リトファスゾイル(円筒型広告塔)を簡易的に函館中部高校、函館蔦屋書店で再現 ポスター・チラシ…イベント周知のため人目を引き付けるものを作成 図書室だより…高校生への久生十蘭のPR、オススメ作品の紹介 ブックトーク…函館中部高校、函館蔦屋書店にておすすめ作品や久生十蘭の魅力を紹介 「読んで話す会」…「骨仏」を読み解釈の交流、ジュウラニアン化への直接的なアプローチ
【プロセスと成果】	<p>始まりはWikipedia執筆の地域プロジェクトであった。Wikipediaを書く準備をする中で、果たして知名度の低い久生十蘭のWikipediaを書くことが何か地域のためになるのかと考えた時に、もっとできることがあるのではないかと感じた。彼の作品に触れ、魅力に気づいたメンバーは彼をもっと知ってもらいたいと考え、そのための活動をしようと活動内容をシフトした。また、Wikipediaは検索しないと見ることがないという課題にも気づき、知名度向上が優先事項であると全員の考えがまとまった。</p> <p>前期は函館市中央図書館、Café TUTU、抹茶茶房にてPOPなどを配した十蘭コーナーを設置した一方で、五稜郭タワー株式会社専務の中野さんにリトファスゾイルについて話を聞きに行った。中央図書館では本好きの方や、勉強にきた学生などをターゲットにした結果、十蘭コーナーの本の大半が常に貸出中となった。カフェでは図書館よりも幅広い層をターゲットにし、その中には観光客も含まれるため、函館市民以外にも久生十蘭の名前を周知できた。中には本を購入したいという人もいた。</p> <p>後期は函館市文学館にて「生誕120周年記念 久生十蘭展」に参加し、POPの設置、講演会へのゲスト出演などを行った。函館の文学発信の場所である文学館にてこうしたイベントが行われ、それに参加できたことはその後の活動を活気づける大きなきっかけとなった。その後は十蘭の母校である函館中部高校にて十蘭コーナー設置、簡易版リトファスゾイルの設置、ブックトークを行い、今まであまり注目されていなかった十蘭が母校で広まるきっかけを作ることができた。図書室には十蘭の特大パネル、玄関には柱を活用した簡易版リトファスゾイルを設置したことで通る人の目を惹くことができた。さらに、函館蔦屋書店にて十蘭特設コーナー、簡易版リトファスゾイルの設置、イベント開催を実現した。この活動には市立函館高校の生徒3名も函館学の授業の一環として参加し、メンバーが8人に増えた状態で行われた。高校生からも積極的に意見をもらい、より緻密な計画が練られたと感じる。十蘭コーナーでは入り口付近の本棚を借りてPOPや紹介文などで装飾したところ、通常は一年に数冊売れるかどうかといった十蘭の本が約2ヶ月の間で約30冊も売れるという成果が得られた。読書の森と呼ばれるスペースでは簡易版リトファスゾイルを設置し、イベントの告知と久生十蘭の紹介を果たした。イベントではブックトークと「読んで話す会」の二つを中心に進め、各々のおすすめ作品の紹介をしたり、久生十蘭の入門短篇である「骨仏」を読んで解釈を交流したりすることで、彼の作品の魅力について知ってもらった。</p>



函館市中央図書館に十蘭コーナーを特設



蔦屋書店イベントにてブックトークを行う高校生



中部高校に設置した簡易版リトファスゾイル

【総括と反省・今後の課題】

当初の活動内容であるWikipediaの執筆をただこなすのではなく、そこに対して疑念を持ち、本当に地域にとってプラスになることを考えて修正することができた。その中で個々人の思い切った行動力や積極性によって色々な場所で久生十蘭をPRできた。豊富なアイデアに溢れるがあまり、意見がまとまるまで時間を要し、計画を立てる前に行動が先走ってしまったことは反省点であると感じる。

久生十蘭を広めたいという熱い思いのもと1年間行動した中で、読書好きな一部の人だけでなく、各所での周知活動や新聞を通じて十蘭の名前と魅力を広く様々な人に知ってもらえたと感じる。中でも市立函館高校の生徒や、毎回の取材で話した新聞記者の方には直接十蘭の魅力を発信する機会が多くあったため、結果的に彼ら自身をジュウラニアン化することができたことも成果である。また、蔦屋書店でのイベントでもジュウラニアンを増加させることができ、このプロジェクトの目的である「久生十蘭の知名度向上」及び「ジュウラニアンの増加」は大成功に終わったと言えることができる。

反省として挙げられるのは大学内での活動が少なかったことである。普段なかなかできない外での活動を重視したため、いつでもできそうな大学生や教職員を対象に活動することがなかった。そのため、大学生にはなかなか私たちの活動が知られていなかった。今後は大学内でも十蘭を知ってもらい、ジュウラニアン増加に向けて活動したいと思う。

【地域からの評価】

蔦屋書店でのイベントには幅広い年代の方々の参加があった。イベント後に実施したアンケートではジュウラニアン度(十蘭を知らないもしくは作品を読んだことがない状態を0とし、十蘭のファンになったという状態を10とする)に関するアンケートを取った結果、すべての方に上昇がみられ、平均3.57ポイントの上昇がみられた。また、自由記述のコメント欄には「段取りや進行がスムーズで楽しかった。」「若くて頑張っている姿に心打たれた。」など数々のお褒めの言葉をいただいたほか、「今後久生十蘭の作品を読みたい」など知名度や関心の向上にもつながった。

図書館での貸し出しの様子や、蔦屋書店にて例年の数十倍の売り上げがあったことから、地域に十蘭が広まり、関心を得られたことがわかる。

また、一年を通じて計11回もの新聞掲載(報道の記録・P88～89にも掲載)があったように、地域から長い間にわたって高い関心を抱いてもらえたことが窺える。

【謝辞】

市立函館高校の3名の生徒さんをはじめ、関係者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

【年間スケジュール】

■前期

- 4月 アイスブレイク
- 5月 久生十蘭の作品精読
- 6月 イベントや特設コーナーの内容決定
- 7月 中央図書館、カフェに置くポップの制作 SNSでの宣伝活動
- 8月 中央図書館特設コーナーの設置 カフェ2店舗でポップの設置
- 9月 文学館でのイベント、特設コーナーの設置

■後期

- 10月 市立函館高校の生徒とのアイスブレイク ポップの制作
- 11月 中部高校での特設コーナーの設置 蔦屋書店でのイベント準備
- 12月 中部高校でのブックトークイベント 蔦屋書店でのブックトーク、「読んで話す会」イベント
- 1月 成果発表に向けての準備、発表実施 成果報告書の作成

